

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

3092号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



ハートロック (沖縄県今帰仁村)

もくじ

- 政 策
- フォーラム
- 情報
- 随想

視点と発想を転換し関係者の常識が変わる技術革新に取り組む
 誰かが挑戦できるまち神石高原町の創造 II 広島県神石高原町……………(2)

新任都道府県町村会長の略歴
 町村ご当地キャラじまん……………(5)

先人にならい誇りを持って暮らせる大口(まち)を目指して
 愛知県町村会長・大口町長 鈴木 雅博……………(10)

コラム

地域づくりの点・線・面

東洋大学国際学部国際地域学科教授

沼尾 波子

地域づくりとは、ある地域空間において産業や生活の営みの場を創りあげるものだと考えていた。都市計画は、空周利用について、住宅用地、工業用地、商業地、農地など、土地の利用形態を考え、地域がデザインされる。いわば、地域を「面」で捉えて、その利活用について考えるということである。そこに道路網や鉄道網が描かれることにより、人の移動の形が描かれることになる。

だが、人口減少時代において人々の繋がりの再構築を考えようとする。そこには個々の住民という「点」と、それらの人々が出かけて行く先である「線」とを結ぶ多数の「線」がどのように分布しているのかを考える視座が必要となる。例えば学校統廃合の影響を考えようとするれば、児童生徒の住まいと学校、あるいは教員の住まいと学校までの移動を線で描きながら、通学手段や、学校と地域の連携の在り方等が検討されることになるだろう。

このように、現代社会において地域づくりを考える際には、地域を「面」で捉えるのみならず、「点」と「線」さらにそれが複雑に絡まる網目(ネットワーク)で捉える視座が必要だ。

先日、福島県浜通りの相双地域を訪問する機会があった。福島第一原子力発電所から数十キロ圏内のエリアでは、徐々に避難指示区域が解除されている。これらの地域では、帰

還・復興に向けて、様々な施設が面的に整備されている。だが、地元への帰還はなかなか進まない。面的整備は進んでも、そこに「点」と「線」を描こうとすると、いわば網目の粗い状態が生じている。

「面」の論理で空間整備を行うだけでは、復興とはいえない。そこで生活する人々、働く人々がどのように地域を行き来し、関係を取り結ぶか。スラスラな網目を補完するような行政支援が必要である。買い物・医療・介護・学校・職場など、暮らしと仕事のなかで、「点」と「線」の密度を考え、それを補完するための場と関係を構築することも、行政の役割といえる。これは、人口減少が著しく進み、人々の関係性が希薄化する他の地域においても同様であろう。

地域経済の活性化とは、それぞれの場所が生み出される財・サービスへの付加価値が大きくなることだけを指すのではない。人々の社会経済活動における関係・交流の密度もまた、重要な要素になりうる。

「関係人口」という言葉もあるように、近年、域外に暮らす人々を新たな「点」と捉え、地域の「点」と「線」の密度を高めるための場と関係の構築を模索する動きもある。

このように、地域づくりにおいて、面的な計画に留まらず、「点」と「線」を意識した視座が求められているのだといえよう。

写真キャプション

ハートロックの付け根は何千年もの歳月をかけて波に浸食され、ハートの形になったといわれており、「恋島」と呼ばれ親しまれる古宇利島の北側・ティーヌ浜で見ることができ。テレビCMに取り上げられたこともあり、観光スポットとして注目を集めている。

政 策

視点と発想を転換し関係者の常識が変わる 技術革新に取り組み 平成30年度 森林・林業白書

「平成30年度 森林・林業白書」が、令和元年6月7日に公表された。森林は現在、戦後造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎えており、国内の豊富な森林資源を循環利用することが重要な課題となっている。平成30年度の森林・林業の動向や主要施策への取組状況を紹介する。

平成30年度の動向

白書の冒頭では、平成30年度における特徴的な動きとして、5つのトピックスを取り上げている。

トピックス1…平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震による災害の発生と復旧への取組

平成30年7月豪雨では、西日本の広域で山腹崩壊や土石流等が発生し、林野関係では約1、659億円と、ここ10年で東日本大震災に次ぐ被害額となった。

平成30年北海道胆振東部地震では、山腹崩壊等が発生し、林野関係では約475億円の被害となった。

林野庁は、迅速な被害状況の把握、

災害復旧事業により早期復旧に努めた。また、事前防災・減災に向けた「国土強靱化」の取組を推進しているとしている。

トピックス2…国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）

2018年12月にポーランドで行われたCOP24では、2020年以降のパリ協定の本格運用に向けて実施指針を採択した。森林による吸収量の計上ルールが整備され、温室効果ガス排出削減目標の達成に森林吸収源対策が引き続き重要な役割を果たしていくことが期待されている。

トピックス3…ますます進んでいく非住宅・中高層建築物の木造化・木質化の取組

今後のモデルとなり得るCLTを

始めとした新たな木質部材等を活用した非住宅・中高層建築物の建設が各地で進行している。

経済同友会やJAPIIC（日本プロシエクト産業協議会）等の経済団体は、建築物の木造化・木質化による木材需要拡大に向けた取組を続けている。木材利用に取り組みつとす

る民間企業・団体等は、木材が利用しやすい環境づくり、日本全国に木材利用を広げていくプラットフォームづくりに取り組み「ウッド・チェンジ・ネットワーク」を始動させた。

トピックス4…森林・林業・木材産業と持続可能な開発目標（SDGs）

2015年に国連総会において採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されている。目標15

「陸の豊かさも守ろう」の達成のため、林業の成長産業化と森林の多面的機能の発揮に向けた取組が必要である。森林・林業・木材産業に関わ

る様々な主体の取組は、安全な水の確保や山地防災を通じた持続可能で強靱な国土の形成、クリーンエネルギー化の推進等の達成に貢献している。

トピックス5…「第69回全国植樹祭」が福島県で開催

2018年6月、平成最後の全国植樹祭となる第69回全国植樹祭が、福島県南相馬市で開催された。

イノベーションで今後の森林を支える

特集となる第1章では、「今後の森林の経営管理を支える人材」森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！」がテーマとなっている。

日本の人工林は、その半数が一般的な主伐期である50年生を超え、本格的な利用期を迎えている。森林の有する多面的機能を将来にわたって発揮させていくためには、この人工林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用していかなくてはならない。

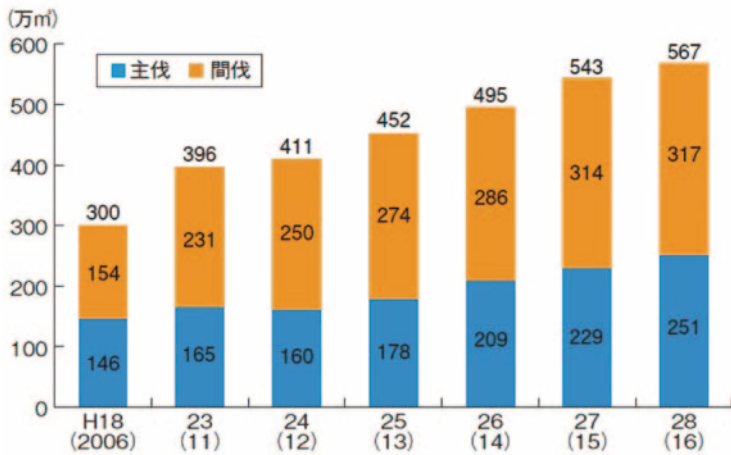
林野庁は、取組の過程が適切に伸びているかを計測する重要業績評価指標（KPI）を設定しており、令和10（2028）年までに、私有

政 策

人工林に由来する林業・木材産業の付加価値額を倍増させる（2015年：2、500億円）こととしている。

林業の成長産業化と森林の適切な経営管理を実現するためには、これまでの取組を単に継続するのではなく、生産・流通・経営管理面でのイノベーションに取り組み、魅力ある林業の実現を目指す者を育成していくことが必要である。

林業経営体（森林組合、民間事業体、林家等）の総数は減少する一方、



注：計の不一致は四捨五入による。
資料：林野庁「森林組合統計」

図1 森林組合による素材生産量の推移

「提案型集約化施策」等による森林施業の集約化に取り組んでおり、そのために必要となる森林施業プランナー等の人材も多く在籍する一方で、総事業費取扱高が1億円未満と平均の4分の1に満たない森林組合が約2割存在するほか、専従職員がいない森林組合も存在。常勤理事の平均年齢は約68歳、女性理事の割合が

林業産出額が2010年の4、224億円から2015年は4、550億円へと増加し、1万㎡以上の素材生産を行った林業経営体も361経営体から524経営体となるなど拡大傾向となっている。

森林組合数は2011年の672組合から2016年は624組合に減少、総事業費取扱高は2、643億円から2、695億円に増加しており、事業規模は拡大している。主伐も含めた素材生産量については平成23（2011）年度の396万㎡から平成28（2016）年度には567万㎡へと、近年大幅な伸びを示している（図1）。

0・4%であるなどの課題もある。民間事業体は2015年現在2、456経営体となっており、素材生産を行う事業体の多くは経営規模の拡大を希望しているほか、資金面でも信用保証の実績が2012年度からの5年間で約1割増加するなど、生産規模の拡大の動きが活発化している。事業体によって取組に幅があり、後継者の確保や効率的な作業システムの普及、安定的・効率的な原木の供給が課題となっている。日本の伐出・運材等のコストは海外と比べて割高という研究結果がある。立木の売却のみでは育林コストを賄うのが難しいのが現状だ。スマート林業や生産流通構造改革等によるコストの低減、新たな木材需要の開拓による丸太価格の上昇が可能になれば、山元への利益の還元を進めるとともに、林業経営体の適正な利益の確保、さらには林業従事者の労働条件の向上につなげていくことも可能であるとしている。

近年は、ICTの活用など、イノベーションの萌芽といえるような成果を出している事例もあり、こうした成果を全国に広げていくことが必要となっている。

森林の適切な管理及び保全を推進

第2章では「森林の整備・保全」について紹介している。

森林の多面的機能の発揮のため、資源の適切な利用とともに、主伐後の再造林や間伐等の着実な実施が必要である。

主伐後の再造林を推進するため、造林の低コスト化と苗木の安定供給が一層重要になっている。

保全の動向としては、公益的機能の発揮が特に要請される森林を「保安林」に指定し、伐採、転用等を規制するほか、保安林以外の森林が転用される場合も「林地開発許可制度」で適正な利用を確保。山地災害危険地区の的確な把握、荒廃森林の整備、海岸防災林の整備など、総合的な治山対策を推進している。

林業産出額は高水準をマーク

第3章では「林業と山村（中山間地域）」について紹介している。

日本の林業は、長期にわたり木材価格の下落等の厳しい状況が続いてきたが、2017年の林業産出額は、前年比3%増の4、859億円と、

政 策

2002年以降で最も高い水準となった。木材生産の占める割合は2002年以降は5割程度で推移している。

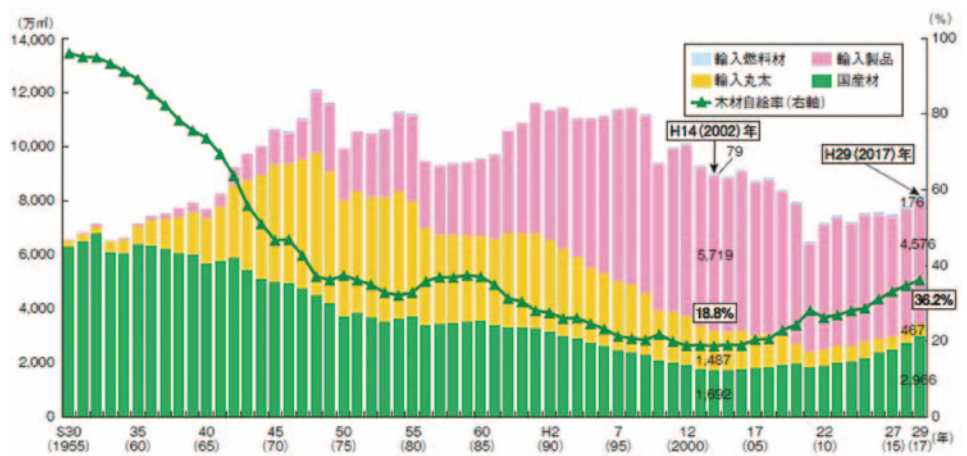
特用林産物の動向としては、林業産出額の約5割を占め、地域経済の活性化や雇用の確保に貢献している。特用林産物の生産額の9割近くがきのこ類で、近年の生産量はほぼ横ばいとなっている。きのこ生産者戸数は減少傾向となっているため、効率的で低コストな生産に向けた、ほだ場等の生産基盤や生産・加工・流通施設の整備に対して支援をしている。

住民が林業を営む場である山村の活性化に向けて、地域住民による里山林の保全管理や森林資源利用等の取組を支援。国有林の「レクリエーションの森」等の森林空間を観光資源として活用する「農泊」の取組や、環境教育、体験活動等の場として総合的に利用する取組を推進している。

国産材供給量は増加傾向

第4章は「木材産業と木材利用」について紹介している。

世界の木材消費量は2008年秋



資料：林野庁「木材需給表」

図2 木材供給量と木材自給率の推移

スギ等の国産材利用の増加、木質バイオマス発電施設での利用の増加等を背景に、平成14（2002）年の1、692万mを底として増加傾向にある。平成29（2017）年の国産材供給量は、前年比9・3%増の2、966万mであった（図2）。木材利用については、2017年度に着工された公共建築物の木造率（床面積ベース）は、前年比1・7ポイント上昇の13・4%、うち低層では前年比0・8ポイント上昇の27・2%。エネルギー利用された間伐材等に由来する木質バイオマス量は、2017年には前年比35%増の603万mと、年々増加している。

消費者に対しては、木材利用の普及啓発の「木づかい運動」や、ワークショップ等を通じた「木育」を実施している。

公益重視の管理経営

第5章は「国有林野の管理経営」について紹介している。国有林野の管理経営に当たっては、重視すべき機能に応じて「山地災害防止」「自然維持」「森林空間利用」「快適環境形成」「水源涵養」の5つのタイプに区分している。また、民有林でも直轄で災害復旧を実施したほか、被災した地方公共団体に対する技術者の派遣等の協力・支援を実施するなど、公益重視の管理経営を推進している。

復興に向けた取組

第6章は「東日本大震災からの復興」について紹介している。

東日本大震災により発生した、林地荒廃、治山・林道施設の被害等は、災害復旧事業の対象箇所の97%が工事完了した（2019年1月現在）。津波により被災した海岸防災林の要復旧延長は約164kmで、約163kmで復旧工事に着手済み。2020年度までの復旧完了を目標としている。

人口減少や産業空洞化といった全国各地域にも共通する課題解決に向け、森林資源の活用を通じた復興に向けた取組を実施している。

フォーラム

国定公園 帝釈峡と遊覧船

現地レポート 町村独自のまちづくり



誰もが挑戦できるまち

神石高原町の創造

広島県

じんせきこうげん 神石高原町

神石高原町の概要

神石高原町は、広島県東部、標高約500mの中国山地が南に張り出した地形の中に位置する面積382km²の森林に囲まれた高原のまちです。備後の中心都市である福山市までの距離は約30km、町のほぼ中央部を、岡山県新見市と福山市を結ぶ国道182号が縦断しており、中国自動車道、山陽自動車道へアクセスしています。

神石郡は、大化の改新の際、国府による郡制が敷かれたことにより発足しました。その後、歴史の変遷を経て、昭和34年に油木町、神石町、豊松村、三和町の神石郡内4町村体制となり、平成16年11月5日、4町村が合併して「神石高原町」が誕生しました。

合併時の人口は、12,000人余

りでしたが、現在は、人口9,026人、高齢化率46.9%（平成31年4月1日現在）で、過疎化、高齢化が進行し、人口減少対策が急務となっています。



▲神石高原町の大自然 塚ヶ峠の雲海





▲神石牛

高冷地気候として、夏は涼しく冬は寒いのが特徴で、特に夏期においては、昼夜の温度差が大きいため、高い糖度で品質のよい神石高原野菜が生産されています。また、良質な米の産地であるとともに「赤と黒のプロシエクト」として、トマト、ぶどう（ピオーネ）、地元のブランド和牛「神石牛」を振興しています。これらの特産品とあわせて、町全体の知名度の向上、産業振興及び地域活性化に資することを目的として「神石高原町でかかやく、もの・ひと・こと」などを神石高原プレミアムブランド「JIN（神）プレミアム」として認定し、その魅力を町内外へ発信しています。

本町は、国立社会保障・人口問題研



▲「JIN（神）プレミアム」ロゴマーク



▲神石牛ロゴマーク

究所において2060年に人口3、000人と推計され、広島県内で最も消滅可能性が高いとされています。これに対応するため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、「挑戦のまち」を掲げ、同年に7、500人の人口規模を維持するべく、誰もが挑戦でき、一歩ふみだすことができる環境づくりに取り組んでいます。

ビジネスチャレンジを支援

平成29年9月に神石高原町の資源を使ったビジネスチャレンジ事業者を支援する目的で、「一般財団法人 神石高原地域創造チャレンジ基金」（通称：チャレンジ基金）を設立しました。

チャレンジ基金は、事業者に対して資金的な支援を行うと同時に、経営指導などの伴走型支援を実施し、事業者の経営を安定させるとともに、自律的な運営を促すことで、新規事業者の参入を容易にすることを目指しています。

平成29年度に1回、平成30年度に2回の案件募集を行ったところ、合計で16件、3億4、000万円の支援申し込みがあり、4件、4、200万円の支援を決定したところです。

支援第1号の事業者へは、農産品の加工施設整備に係る資金を支援しまし

た。個人で6次産業化に取り組み始めたところを、法人化し生産量や販路の拡大に取り組みまれています。

支援第2号の事業者へは、町のブランド牛である「神石牛」の繁殖から肥育までを行うための牛舎建設資金を支援しました。平成31年2月には1棟目の牛舎が完成し、続いて次の牛舎建設準備を進められており、着実に事業を拡大されています。

このチャレンジ基金の支援事業者については、町としても総務省の「ふるさと起業家支援プロジェクト」の対象

- ビジネスチャレンジを生み出すためのしくみ -

○新しいビジネスチャレンジをサポート



○地域の資金循環の受け皿に



▶ チャレンジ基金のイメージ

フォーラム



▲チャレンジ基金の支援により建設した牛舎

事業者として、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施することも可能としています。

また、同年から「神石高原町チャレンジアワード(ビジネスプランコンテスト)」を開催しています。賞金を最優秀賞100万円、優秀賞50万円とし、1年目には9件、2年目には3件の応募がありました。

1年目の最優秀賞プランは、全寮制インターナショナルスクールを設立するというもので、現在、2020年4月開校に向けて準備が進められています。

2年目の優秀賞プランは、帝釈峡神龍湖の湖上に舞台を設置し、遊覧船か



▲帝釈峡神龍湖 湖上神楽

ら神楽を鑑賞するもので、周辺の観光資源とあわせて体験型観光プログラムを提供するものでした。

過疎地域においては、新たな挑戦がなかなか困難だと思われませんが、この2つの取組によって、潜在的には、挑戦の意欲を持った方々が存在するということが確認できました。今後も新たなビジネスチャレンジを支援していきます。

魅力化 広島県立油木高等学校の

神石高原町では、合併直後から町内唯一の高校である油木高校の魅力化に取り組み、通信衛星授業の実施、校外



▲SFCとの協定締結式の模様

活動・クラブ遠征の支援などを実施してきました。平成26年度からは、連携型中高一貫教育を開始し、公設学習塾「はやぶさ塾」の開設、さらには海外交流支援などを行ってきました。平成29年8月には、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)と「地方創生に関する連携協力協定」を締結し、本町に全国で初となる「地域おこし研究員」が就任しました。「地域おこし研究員」は、総務省の「地域おこし協力隊」制度の枠組みの中で、自治体とSFCが連携して、SFCの大学院生を自治体が任用し、地域の現場で実践的な研究開発を行うものです。

本町の研究員は、「広島県立油木高



▲ドローンを飛ばす高校生と地域おこし研究員

等学校魅力化+プロジェクト」に取り組まれました。正式な部活動ではないものの生徒15名の参加によりドローンスクールを開催し、ドローンの仕組みやプログラミング、空撮動画の編集などを学び、実際に屋外で空撮・測量などが実践してきました。この生徒たちが培ってきたドローン技術を活用した取組をさらに発展させるため、「生徒の新たな挑戦」、生徒主体プロジェクト「油木高校ドローンアカデミー」が発足しました。

また、平成29年12月、楽天株式会社と連携協力に関する協定を締結しました。その一環として、平成30年8月から楽天が提供する地域課題解決プログ

フォーラム



▲楽天ITスクール

ラム「Rakuten IT School NEXT」に参加し、高校生が楽天社員と地域住民とともに地域の課題について考察し、解決策を立案してきました。この中から耕作放棄地の課題解決策について、12月に楽天本社で発表を行いました。

さらに、放課後における学びの場、【神（JIN）ゼミ】を開講しました。これは、総合的な学習の時間の中に地域を舞台に学び、体験し、解決策を考える「地域学」を取り入れ、授業と連動して「自ら課題を設定し、その解決に向けて探求・行動し、振り返り、改善し次に活かしていく」学びをサポートするものです。

このほかにも、同校の産業ビジネス科の取組として、「ナマズの養殖」を行い、広島東洋カープ球場の本拠地マツダスタジアムで「なますのてりやき丼」を調理・販売するなど、町の新たな特産品として6次産業化を目指しています。

高校の魅力化を通じて、自ら考え行動していく姿勢を持った人材を育み、大学進学などで町を離れたとしても、やがてこの町にかえってくる人材となり、地域の将来を担っていただくことを期待しています。

おわりに

神石高原町は、豊かな自然と地域の人々が永年にわたって築きあげた歴史と文化が豊富にあり、長期総合計画の将来像である「人と自然が輝く高原のまち」の実現を目指して、産業・歴史・文化・自然など豊富にある地域の特色を生かしながら、住民と行政の協働による「小さくても元気のであるまちづくり」を進めています。

同時に、全国的に人口が減少する中で、各市町村が知恵を絞り、地域の特色を活かして対策を進めています。

本町としては、自治体はもとより、民間企業、教育機関、金融機関などさまざまな分野と連携しながら、新たな



▲マツダスタジアムでの販売の様

挑戦が生まれることを支援していくことにより、誰もが挑戦できるまち神石高原町を創造し、持続可能で魅力的なまちづくりを進めます。

神石高原町 政策企画課

新任都道府県町村会長の略歴

山形県町村会合は令和元年5月17日の総会で次の通り会長を選出した。（5月17日就任）

山形県町村会長
東田川郡庄内町長

原田 眞樹

昭和28年1月19日生



【住所】東田川郡庄内町廿六木字三ツ車15番地

【町会長としての当選回数】5回（旧余目町含む）

【町会長に就任するまでの経歴】▽平成7年4月余目町議会議員▽平成14年7月余目町長▽平成17年7月庄内町長

【町村会関係の経歴】▽平成17年12月庄内地方町村会長▽平成21年4月山形県町村会副会長

【主な業績】▽余目町・立川町の2町を合併し、庄内町を設置▽宮城県南三陸町と「友好町盟約」「災害時における相互応援に関する協定」締結▽庄内町子育て応援日本一の町づくり宣言▽庄内町みんなが主役のまちづくり基本条例施行▽学校施設等の耐震化・空調設置▽庄内町第二屋内多目的運動場・八幡スポーツ公園オープン▽新産業創造館クラッセオープン▽ギャラリー温泉町湯オープン▽道の駅しょうないオープン▽町営バス中心市街地循環線導入▽清川歴史の里オープン

【趣味】シャス鑑賞・ゴルフ

【家族】妻・息子

町村

ご当地キャラじまん

Vol.51

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、東ブロック(北海道・東北・関東)からピックアップ。

東
ブ
ロ
ッ
ク



ウサギの頭巾を被ったクマの女の子。たぶん12歳。とても頑張り屋さん。村産の「フルーツほおすき」を食べ過ぎて体がオレンジ色になっちゃらしい。趣味はフルーツほおすきを使ったお菓子作り。



上小阿仁村PRキャラクター

「あびょん

秋田県上小阿仁村



上小阿仁村の若手職員の見案を基にデザインし、その後キャラクター名を公募。全国から応募があった447点から地元の小中学校児童生徒の投票によって命名され、2017年5月に「あびょん」が誕生しました。体は村産の「フルーツほおすき」、つぶらな瞳は村産の「ナツハゼ」の実で、村で発見された「コアニチドリ」の花のアップリケが付いたバッグを提げ、お腹には村章のデザインと、全身で上小阿仁村を表現しています。村内には不定期に出没していますが、毎年8~9月にかけて開催されるアートイベント「かみこあにプロジェクト」の応援キャラクターを務めているため、期間中はイベント会場に頻繁に現れるとか。PRキャラクターの使命を全うすべく、村外の各種イベントにも積極的に参加して、村の魅力をアピールしていきます。

東
秩
父
村
マ
ス
コ
ッ
ト
キ
ャ
ラ
ク
タ
ー

わしのちゃん

埼玉県東秩父村



1300年の歴史を持つ伝統工芸和紙「細川紙」をイメージし、2010年に誕生したマスコットキャラクター。デザインは公募で村民より寄せられたもので、頭部が和紙の巻紙、着物には東秩父村の中央を流れる槻川をイメージしたブルーの帯に村章を象った帯留をしています。お父さんの「梧造」、お母さんの「ころろ」、おじいさんの「三極」、おばあさんの「すきふね」、双子の妹「あおい」と、全員「和紙」に関する名前がついており、一家6人仲良く「和紙の里」に住んでいるのだとか。「わしのちゃん」がPRしている「細川紙」の伝統的漉き和紙の製法技術は、1978年に国の重要無形文化財に指定され、2014年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。そんな「細川紙」の素晴らしさを広く知ってもらうため、村外のイベントでもPR活動が続けています。



本名は、槻川わしの。10月10日生まれ。永遠の10歳。おじやかな性格で、特技は紙漉き。趣味は自然を感じることに。だが、道は苦手。東秩父村のB級グルメ「あすきすくい」が大好き。



12月2日生まれの「にんにん」(青)は優しくて穏やかで、料理が得意。8月7日生まれの「どんどん」(赤)は頼りがいがあり、和紙漉きや習字が得意。10月1日生まれの「ぼんぼん」(黄)は知的で博識で、特技ははんこづくり

市川三郷町PRキャラクター

市川三郷レンジャー

山梨県市川三郷町



市川三郷町の知名度アップのために、地元で元市川高校美術部にデザインを依頼し、2008年に誕生した「市川三郷レンジャー」。三珠町の大家にんじんを「にんにん」、市川大門町の神明の花火大会を「どんどん」、六郷町の特産品や名物をモチーフとした3体で構成されています。シールやタオル、ボールペン等のグッズ、LINEスタンプも発売され、3体の名前が盛り込まれた「にんどんぼん体操」や「市川三郷音頭」も町民に親しまれています。4月の「ぼんぼんの花まつり」、11月の「はんこ日本一六郷の里秋まつり」、12月の「大塚にんじん収穫祭」といった毎年開催される町内のイベントだけでなく、町外にも出かけ、町のPR活動に励んでいます。

次回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からご紹介します

随 想



随 想
先人にならない
誇りを持って暮らせる
大口(まち)を目指して

おおぐち すず き まさ ひろ
愛知県町村会長・大口町長 鈴木 雅博

光陰矢の如し

歳を重ねてこの頃、月日が経つのは早いものだなと感じることが多く、町長の職に就かせていただいたので、6年目を迎えたこともその一つ。

私の家は、祖父が作業用手袋等を扱う店を立ち上げ、父が事業と業種を拡大し、父の第5代大口町長就任を契機に、私が家業を継ぐこととなった。多くの仲間と青年会議所等で切磋琢磨し、家業を会社組織へ移

行させるなど、社員として経営者として通算35年余、事業に力を注いできた59歳の秋、第8代町長候補者への推挙という、新たな転機が訪れる。

行政経験ゼロの私、決意までの間、不安や恐怖心にさいなまれたが、諸先輩や仲間から期待の声を聴く中で、生まれ育ったまちへの感謝と、この豊かなまちを次の世代に送りたいという一心で第一歩を踏み出した。

「正選」の知らせを受けた瞬間の喜びをはるかに上回る緊張感と周りの方々への感謝の念は、職を退く日まで決して忘れまいと心に誓っている。

試行錯誤・五里霧中

平成25年11月1日初登庁。迎えていただいた職員の方々に、想いと覚悟を話した。

「まちの将来に夢を持ち、目先・慣例にとらわれず50年先を見据え、子や孫が誇りをもって暮らせるまちにしたい。このまちは、都市近郊ながら田畑が残り、世界に誇れる企業がある。夢とやる気があれば、まちはさらに発展する。人々は優しく謙虚だが、時として自信なさげに見えるのが悔しい。互いに礼を持って礼を尽くし、常に笑顔で心がけ、皆さんと共に職責を全うしたい。」

とは言ったものの、行政言葉や書類、会計方法、実に多種多様な町民の皆さんの声、地域の懸案課題など、

想像をはるかに超えた、学びの日々であった。

飲水資源

中国の故事成語の一つで、私が大にしている言葉。

「水を飲む者は、その源に思いを致せ。」広く解釈すると、「井戸の水を飲む際には、井戸を掘った人の苦勞を思いなさい。」の意である。

大口町は、昭和の大合併の折(当時は大口村)、純農村で貧しく近隣自治体に合併を拒まれ先人が奮起。「自主自立」を掲げ、当時は貴重な田畑をまちの人々は工場用地として提供し、残した土地は改良事業を推進することで生活道路も整備したと聞く。

その決断は、経済成長という追風を受け結実したが、大口町を評する折、真っ先に言われる「財政豊かでないね。」に、寂しさを感じる自分がある。

このまちには、犬山扇状地がもたらした強固な地盤や肥沃な大地を支える五条川があり、公共心あふれる人財は豊富で、国宝「松江城」を築城した堀尾吉晴公生誕の地でもある。

お金や数字で表すことのできない、貴重な財産がこのまちにはたくさんあることを、まちの皆さんに知って貰い、それが真の「誇り」なのだ、シティプロモーションに

取り組んでいる。

種を蒔かないと収穫の喜びは得られない

今、総力を挙げて推進している、企業誘致や道水路の再整備、自治・まちづくり活動や保育・教育、健康づくり等は総て、先人も取り組んだこと、企業理念と同様、行政にもまた普遍性がある。

岐阜県の御母衣ダム建設の際、悠久の時代から、村人の拠り所であった桜の原木が水没することを惜しみ移植した話には、こんな想いが託されている。

「進歩の名のもとに、古き姿は次第に失われてゆく。だが、人の力で救えるものは、なんとかして残してゆきたい。古きものは古きがゆえに尊いのである。」

数値目標や効率、成果が重要視される時代。お金やモノ、数字を否定する気はさらさらないが、それでも私は、住民、企業、行政がまちの将来への想いを一つにし、手を携えて汗を流して種を蒔き、その収穫を皆で喜び達成感を得ることで、活気あふれるまちにしたい。

たとえその成長が遅くても、収穫を見届けることができなくても、将来の強い憂いに備えるために、新たな種を蒔き続けたいと願っている。
町民・企業・職員の皆さんと共に。

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

広さと設備が多彩な大ホールと、3つの
会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用
いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



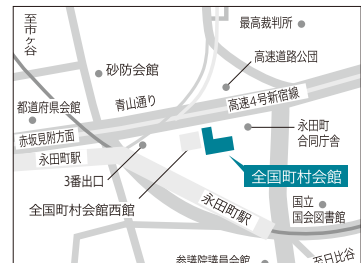
カジュアルレストラン「ペルラン」



和食処「さいから」

客室のイメージ	SINGLE ROOM シングル 119室	DOUBLE ROOM ダブル 12室	TWIN ROOM ツイン 18室

和室もございますのでお問い合わせください。(禁煙ルームもご用意しております。)
※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号
ホームページアドレス <http://www.zck.or.jp/kaikan>

- 全国町村会館へのアクセス
- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
 - ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
 - ・タクシー東京駅から約20分





当せんのチャンス広がる

ハロウィン ジャンボ

5億円

ハロウィン ジャンボ

1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

3千万円

1等前後賞合わせて3,000万円
1等2,000万円、前後賞各500万円

大収穫!
ハロウィンで
ジャンボな

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上のために
使われます。

インターネットからも
購入できます!

宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月24日(火)

発売期間 9月24日(火)~10月18日(金) 抽せん日 10月30日(水)

**同時
発売**



各1枚 300円
一般財団法人 全国市町村振興協会
2019年新市町村振興宝くじ